

# 児童福祉活動に対する

## コミュニティーニードと活動範囲について

吉 沢 英 子

児童福祉活動にあつては、そのコミュニティーの諸団体、行政機関等が働きかけ、或いは援助している。また児童に関する活動の中で、最近二、三年間に非常に増加し、更に各地の社協、教育委員会もその育成に乗出しつつあり、全国で六万三千にも及ぶと云われている子供会の形に於ける活動を扱つてみたい。

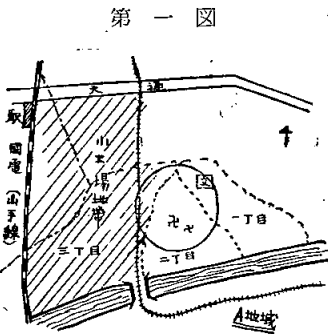
従つて、この稿に於てコミュニティー住民の児童に対するニーズとは、そのコミュニティーの住民、特に親としての立場を基として、児童の遊びを通じそれに対する意識の面から考察したものである。地域的に特徴をもつ四地域内の実際活動から、その事例と関係を保ちながら、意見調査結果をみたいと思う。この調査は、子供をもつていないとに拘らず、活動場所を中心は無作為抽出で各地域五〇ケースをインタビュー法によつて一九五六年八月～九月に行なつたものである。

### 一、コミュニティーの概況

ここで四地域の特徴を極く簡単に述べておきたい。

A 小工場地域 Ⅱ 長屋続きでバラック風の家屋が多く、未だに被災の面影が残つている。活動場所徒歩十分以内には、大きな藥品

会社の分工場があり、或る時期には一部の児童は袋張り、箱つくりの内職を手伝うことを余儀なくされる。これは薬品を入れるための袋、箱になるわけである。小路を入れば駄菓子屋として僅かに店らしい様子がうかがえるかと思える店がみられる。児童は、五円、十円をもつてこれを利用している。(第一図 第一表参照)

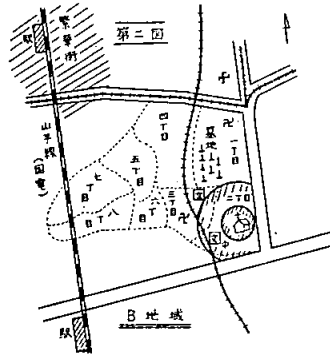


第一 図

B 準小住宅地域(山の手) Ⅱ 住宅地の特徴と共に、一方A地域的要素がみられる。(第一表参照)

C アパート団地地域 Ⅱ 鉄筋コンクリート四階建一棟二十四世帯単位となつている。この地域は人口に比して児童の比率が小である事は、居住者が比較的若い層である事、又居住条件が取入その

他にあることに影響されているとも考えられる。モデル地区として、多方面に知られている(第三図、第一表参照)



ある。この寮としては、寮外コミュニティから白眼視されている

が、これが寮内などの様に影響しているかは稿を別の機会にゆずりたい。(第四図第一表参照)  
以下A・B・C・D地域と記す。  
二、コミュニティーに於ける現在までの活動

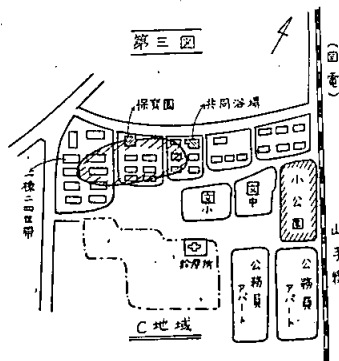
第1表 地域概況

地域	人口	児童数	世帯数	保世帯数	遊人	遊人口 × 100
A	1961 (9787)	585 (4051)	514 (2414)	20 (90)		30%
B	2900 (22269)	728 (6285)	814 (6007)	40 (165)		26
C	4896 (8724)	932 (2083)	1344 (2358)	11 (270)		19
D	181 (9687)	65 (3095)	62 (2397)	44 (76)		36

註 ( ) 内数字は町全体数  
( ) 外数字は丁目内数  
(活動地区)

D 宿所提供施設(母子寮)を一地域として扱った地域C地域と一種共通点も見出される。人口に比して児童との比率が最も高い事は、母子寮という施設なるが故当然のことで

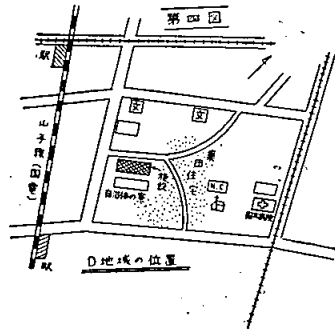
A・B地域に於ては映画会九五%、子供会、学習会等を婦人会、青年会、町会の人々が主催するものが多く、コミュニティの結付がある程度ではあるがみられる事がわかる。即ちコミュニティ内での組織体が非常に協力的態度をもっている。特にB地域の婦人会は、熱心でそのメンバーも大学高専卒が七三%も占め、教育程度も高い。兎角教育程度の高い住宅地域の婦人の集まりは活動が宙に浮きがちであるが、この例はコミュニティとよく結付き理解も深いことが、調査の際の協力度合によつても推察出来る事実である。



C地域は、モデル地区とされているため学校の主催による映画会幻燈会等が多くなつており、組織的な婦人会自治会もあるが、実際には相互関係が円滑でない様である。活動内対してもやや消極的な態度である。これは婦人会等組織体内部での関係がうるさいから、又他の地域にみられない「全くうるさくて困る」とする者がある事に注目される。

D地域では、殆どの母親が失業対策事業従事者として働きに出ており、実際には生活に追われ、児童への働きかけは全く出来ない状態にある。しかし児童に関する(特に自分の子供という意

識)切々たる気持は、他の三地域にみられない程、強度にあらわれ



ている。気持の上で児童に關する活動に大いに援助したいと訴え、同時にその活動の主催者、指導者に対する信頼感は一三%という結果になつてゐる。早朝にこの施設に街頭紙芝居屋が訪れ登校前に児童は見に行く。そのために学校を休んだりす

るものもある。それに対して母親はどうする術も知らぬといつた現状である。母親の学歴も他の地域に比して低く、五五%が高小卒、その他は小卒、又は行かなかつたものである。母親の知能指数も平均八〇〜九〇をあらわしている。従つて児童それ自体に対する関心は潜在的に強いのであるが、活動に対する意識は非常に低いのは当然である。

この様な四地域の特に母親の意識してゐる活動に対して如何に思うかについては、大いに良いとするものA地域では七二%、B地域では六三%、C地域では五〇%、D地域では良悪でなく、要求の形で表われている。これを理由別にみると、A地域では理由なしで唯良しとするものが多いがB・C地域では健康的、情操的によいとはつきりと理由が出てゐる。D地域では指導者への信頼という形であらわれている事に注目される。

### 三、コミュニティーの住民の児童福祉活動に対するニード表面化の過程

児童福祉活動に關するニードは、児童をとりまく危険や問題が非常に多いために、とりあげる機会が多い。従つて活動をはじめの糸口が数多く存在し、その効果が形になつて目に見える。地域のニードは、その小地域内で解決しやすい。また児童については、その他教育等の分野との關係、拮がある事等により潜在せるニードも表面化の過程をたどると考えられる。しかし純粹な意味では、以上の事が言えるのであるが、C地域の如き思想的障害により地域の人々が不安をもつていたり、教育的にもモデル地区という肩書きがある故に他の機関との間に支障をきたしたりする例も少なくないのである。現在まで行われてきた活動に対して悪いとするものの中に政治的つながりがあるという理由をあげている例がある。A地域では、現在まで行われていた諸活動に対して主催者側の無責任な態度をあげているものが三〇%、教育的に芳ばしくない三三%となつてゐる。これは工場の工員対象の映画会、夜の集い、余興の会が行われる事が多い結果とみられる。D地域では前述した様に、施設内の児童が登校前になる紙芝居屋の内容に対して教育的に悪いとしているものが圧倒的に多い。各地域共、児童の遊びに關しては同じ様な遊びを認めてゐるが、特に男児に於てD地域にかけ事、レスリングの遊びが多くみられる。他には一般に野外スポーツ關係のものが多くあげられる。

遊び場については、各地域別の問題がよくあらわれ、A地域では道路で遊ぶ児童が多く、C地域では建物の周囲が多い。この現状についてどう思つてゐるか。即ち遊びと遊び場の關係を含めて

「健康上よいが」として遊びの場所的条件を要求する型としてあらわれている。

場所的に危険（道路上での野球）として悪いとするものB地域では七〇%、A地域では四〇%で、C地域では地域的条件から他への迷惑として四三%もあげられている。これに対してC地域と住居の点では共通的条件をもっているD地域では遊びの内容に危険とするもので、児童それ自身についての事柄であり他家との関連から考慮するものはあまり出てこない。C地域では、親同志のつきあい大人の関係で近隣への親の気兼ねが如実にあらわれている。更に悪い遊びに対する処置方法としては場所的要求即ち遊園地、小運動場、児童館などの設置と共にC地域では集団指導（健全な遊びの指導者）の要求が大きく浮かび上り、他地域では全く求められていないがここでは二四%の要求がみられる。これは児童に関する地域の人々の連帯責任観念のあらわれともみる事が出来るのである。D地域では親がわるいからだとして、親が児童を叱る、よく云いきかせる等、指示的処置をするものが七〇%にも達していることは注目される。

A地域では、児童の指導者の要求が三分の一を占めている。C地域では指導者個人に対する要求としてはあらわれていない。ここでは地域内に小公園、遊園地をもつていながら、場所的要求が五五%もある事は、その理由として建物毎の児童間には、つがあつて、そこから遠くはなれた建物の児童はその公園に行つても仲間はずれにされる、いじめられる等の児童の訴えがあるとの事である。

夏期休暇中に児童の生活で困つた事に対する内容にC地域では危険として屋上、階段の遊びをあげているものが二五%ある事は

他地域にみられない項目である。学習指導上困つたものはD地域で三五%、うるさくて困つた（児童の要求があつて）二三%があがつている事は注目される、各地域共通に多いのは時間的不規則である。またA地域では風紀上困つたとする者が六〇%あげられている。

以上児童の日常生活から親の立場としての見方がはつきりしてきたようであるが、例えば、新しくこの地域内に児童のための活動がなされようとしている時にどうするか、その態度をあげてみると、大いに援助するものB地域では四一%、A地域では一八%それに対して実際に率先して出来ないが頼まれれば大いに援助するものが六〇%と多数にのぼり消極的な動きを示している。これはC地域に於ても同様の結果となつている。D地域では生きるに精一杯なので気持の上で援助したい、出来ない乍らも少額の積立をして児童のために役立てたいと具体的にあげるものが九〇%近くである。ここにもはつきり地域的差異があらわれてきているのである。これに対する援助の方法ではB地域では場所の提供が一四%、婦人会、その他の団体に働きかける一四%、子供達の世話をしたい、子供達と共に活動したい等、積極的態度がみられる。C地域では子供達の使い走りぐらいをする四〇%、他の団体への働きかけ一二%とやや消極的、A地域では子供の世話は大きいしたい三〇%、子供達と共に活動したい一三%、場所の提供三%としてあらわれている。D地域は唯児童のよき指導者を望みたい九五%と出ており、気持では何でもしたいが、と常に変わる児童に対する関心の強さは他地域と異なつた形態をもつてあらわれているのである。

以上各地域毎に地域なりの相異が見出され、それは根本的には何ら変らないのであるが表現形態は大部変つてゐる事が認められよう。

#### 四、活動のコミュニティーへの進出型態とその過程、結果及び評価

前述してきた如き特徴をもつ地域にどんな活動の型をもつて、現在まで進出してきたかについては第二表に示す通りである。活動に当つては各コミュニティーの社会施設、学校、区役所、福祉事務所等と連絡をとつた。しかしそのコミュニティー内での組織がみられたのではない、即ちコミュニティー内に既に組織された活動体として、如何なる型をもつて進出したかを示すものである。この事によつて、コミュニティーの性格と関連して活動過程がはつきりするのではないかと思われる。

A 地域の場合には、直接進出型としたのであるが活動をはじめ以前に、度重ねて臨地調査を試み、一方それに沿つての活動プログラムを検討、更にとのコミュニティーのどの場所を選ぶかを検討した。場所の交渉、活動をはじめつつコミュニティーの町会有力者との交渉を為した。その活動から、集まる児童、母親の集まりに発展し、児童に関しての会合が何回かとられ、母親のための講演会、図書紹介などもなされた。短期間の中にコミュニティーとの親密度が深まり更にコミュニティーの人々の信頼が集まり、非常に活動は容易だつた。児童の生活に対する親の反省会が月に一回ずつ持たれ関心が深まつた。この事から地域の町会、青年会有志が、児童のための塾を開く、近隣に保育園が創設される又、祭礼の際に児童の催が組まれる様になつた等の結果があらわれた。児童同志の間

に、又コミュニティー住民の間に借りてゐる活動場所寺院への親密度も増加し、奉仕的態度も自然の形で表われてきたのである。

B 地域では、間接進出型即ちコミュニティーの二、三の特定個人との話し合いから場所の提供をうけた。教会という場所柄、日曜学校という児童の既成集団に呼びかけ、対象を試みに年齢的に限つて活動に移つたのである。児童を取扱う側にとつては、活動上容易であつたが、コミュニティーとの結びきの点ではA地域に劣る。特定個人が婦人会内の役員であつた事から、婦人会との関係は間接的な関連を持ち得たのであるが、他の特に参加児童の母親としての立場にある人々との直結は、困難を導いたのである。しかし期を経るに従い婦人会から町会員にと関連が付き、理解も徐々に深まつた。町会で子供の日には、町内の小学校新一年の児童のための催を毎年するという結果も出ている。活動中止後の催のためにも内容、活動について、既成組織体に依頼がなされている。児童の休暇には、児童の自主的活動を運ぶべく、コミュニティーの人々の有志が実際活動に當つてゐる事実も現われはじめたり、都内各ブロックで行われる子供会指導者講習会に出席する人々も出てきている。

C 地域では、B地域と同じく間接進出型で婦人会との話し合いの結果、委員を構成し活動に入つたのである。婦人会と活動組織体との関係は、伝統的な底流をもつ意識的関連があつた。この地域では婦人会が二種存在する。その一方は、所謂思想的色彩ありとみられてゐるもので、他は、前者に対抗する意味で結成をみた婦人会である。その後者との関係をもつた。しかしその両者間の抵抗が、実際活動をする上に圧迫、障害となつてあらわれ、更にモデル地区なるが故のコミュニティーの権威的雰囲気は婦

第 2 表 地域別活動経過過程

人会を通じて窺い知ることが出来る。児童自身の活動への要求があつても、そのコミュニティーに如何なる型で活動を転移させてゆ

くかが問題とされる。従つて、コミュニティーの人々との相互内的に結付かねばならぬ活動をそれ自身が、児童の表面化されたニード

型	直接進出	間 接 進 出		間接特殊										
	A	B	C	D										
地域														
活動期間	2年2カ月	1年3カ月	8カ月	1年										
活動場所	寺院(本堂内)	教会(附属保育園)	保育園(室内)	施設(大屋上)										
経過	<p>臨地調査 ↓ 地域の状況(生活環境) ↓ 児童の遊び場所の選定 ↓ 施設分布</p> <p>↓ 場所交渉 ↓ 活動 ↓ 地域の協力(其他団体)</p> <p>↓ 母の会 ↓ 児童調査</p>	<p>特定個人 ↓ 場所の提供 ↓ 集団への働きかけ ↓ 児童既成</p> <p>↓ 対象児童の年齢に制限 ↓ 活動 ↓ 児童調査</p> <p>↓ 地域の個人的協力</p>	<p>婦人会 ↓ (地域小学校) ↓ 活動</p> <p>↓ 地域小学校外活動との関連</p> <p>↓ 活動</p>	<p>施設 ↓ 活動</p> <p>↓ 児童調査 ↓ 母親調査</p> <p>↓ 地域他施設からの協力</p> <p>↓ 地域小学校PTA ↓ 活動</p> <p>↓ 地域青少年問題審議会の協力</p>	結果	<p>① 児童の相互関係増大</p> <p>② 母親の児童への関心大</p> <p>③ 地域内の人々相互の結びつき大</p> <p>④ 青年会による活動抬頭</p>	<p>① 婦人会員間に児童に関する関心普及</p> <p>② 町会が児童福祉活動に理解深める</p>	<p>① 児童相互間の組織的活動がのぞめない</p> <p>② 対象児童への活動上の動がのぞめない</p>	<p>① 児童自身が目的をもつて行動するようになり</p> <p>② 母親の児童への実際的関心が高まりつつある</p> <p>③ つつある</p>	評価	◎	○	△	× (施設外) ◎ (施設内)
結果	<p>① 児童の相互関係増大</p> <p>② 母親の児童への関心大</p> <p>③ 地域内の人々相互の結びつき大</p> <p>④ 青年会による活動抬頭</p>	<p>① 婦人会員間に児童に関する関心普及</p> <p>② 町会が児童福祉活動に理解深める</p>	<p>① 児童相互間の組織的活動がのぞめない</p> <p>② 対象児童への活動上の動がのぞめない</p>	<p>① 児童自身が目的をもつて行動するようになり</p> <p>② 母親の児童への実際的関心が高まりつつある</p> <p>③ つつある</p>	評価	◎	○	△	× (施設外) ◎ (施設内)					
評価	◎	○	△	× (施設外) ◎ (施設内)										

とコミュニティの人々の潜在的圧迫感との間にはさまれ、活動範囲がせばめられる結果として、あらわれてくるのである。D地域は、間接特殊進出型として一施設を小コミュニティとして扱ったもので前述の三地域とは事情を異にする。即ち小コミュニティとその施設を中心とするコミュニティを含めて考察したいと思う。

活動組織体と小コミュニティとの関係には、全く問題がなく円滑に発展の途をたどっている。小コミュニティとこの施設の位置するコミュニティとの関係は、前述した如く一種異なつた人種の集団とみられている。しかし小コミュニティ内での活動を通じて、この施設を中心とするコミュニティ内の団体と結び付きの芽生えが見え出した。D地域に於ては、その他(コミュニティと活動組織体の関係のみでなく)の三地域に見られぬ型で即ち生活そのものに対する迫力からの親密な結付きにと拡大が容易である事がわかる。

第二表に依つて明確な様に各地域それぞれの特徴があらわれている。従つて結果、評価を総体的にみて、表の下欄に記してある如くである。この表われ方によつて、この稿で扱つたコミュニティに類似している条件をもつているからといつてあてはめることは、不可能な点が多々見出されよう。それは当然なことで、そのコミュニティのニードの強弱、表面化の方向によつて多少相異がみられると思う。ここで扱つた各々は一例にすぎないことをお断りしておきたい。

こうした児童福祉活動(子供会)の形式の分類にも種々ある。巡回で行われるもの、任意になされるもの、校外子供会等、又活動内容別にみれば ①大人の与えるもの ②児童自らの会 ③児童自らのニードにより活動に対する大人の援助による会等。

そこで、ある限定によるコミュニティについて小さな実例を前

述したが、これをここで扱つたコミュニティなりに分類し今後どの様に活動に導入するかを考えてみる事にしよう。

A地域及びD地域に於ては①②③混合即ちその時と場合によつて、コミュニティ内の他の団体との交渉、受入れがなされなければならぬ。特にD地域に於て、児童の周辺の生活から導入し実際のプログラム素材を考慮すべきである。即ち①②③の順序で結ついて行くのである。A地域では③①②とみられよう。B地域では②③①、地域的に児童に対して知的関心度がみられ、且既に種々な団体(婦人会、町の有志)による活動がはじめられており、その団体自身の活動も円滑に運営され児童それ自身のニードを把握出来、見守り扱いこなして行けるのではないかと思われる。C地域では③②①、地域内の有志が発起し児童のニードを一部でも援助し、活動をはじめる。即ちこの事から、コミュニティの多くの人が近隣のわずらわしさを気にしたり、不安をもつたり、地域的圧迫感を自然消失されるのではないだろうか。コミュニティの有志の人々との児童自らの会が、コミュニティの多くの人々をして、その活動の効果を認識せしめ自ら活動への援助の形をたどる事が出来よう。

以上、各地域の種々の条件によつて活動進出の仕方も異なる。従つて、活動内容もそれにそくしたものを組入れて行かねばならない事は、明白な事実である。

或る県では、ボランティア・ユース・ソーシャルワーカー運動としてそのコミュニティの青年達を育成している。又子供会指導者組織として全国に凡そ四千、会員数二万六千名と云われているが、実際活動としてあまりのびた活動はなされていない様である。従つて、活動それ自体の活動でなく、それ以前の問題としてそのコミュニティを如何に把えるかの問題が提起されると思う。